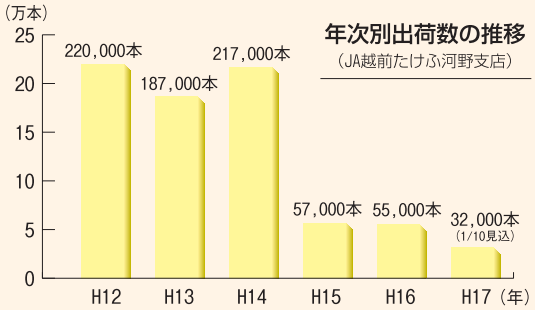
越前水仙の産地をPR

12月25日水仙まつりが開幕し、河野総合事務所を会場に開会式が行われました。水仙まつりは、越前海岸の良さを全国にPRしようと南越前町、越前町、越廼村の合同によるもので今年で31回。今では冬の風物詩として越前海岸恒例行事となっています。式では、越前海岸観光協会連合会の山野幹夫会長が「水仙の良さを再認識し観光振興に努めたい」とあいさつ。このあと、増澤町長が「一人でも多くの方が越前海岸の良さを感じてくれるよう、水仙娘のみなさんがしっかりPRされることを期待しています」と激励。水仙娘の3人はまつり期間中の盛り上げ役としての意気込みをみせてくれました。

また、この日は常陸宮家へ献上する越前水仙の発送式も行われ、香り高い極上の水仙が届けられました。

常陸宮家献上

越前水仙の献上は、平成2年に常陸宮ご夫妻が福井県を訪れた際、水仙がお好きだということが話題になったことから始まりました。以来、越前町、越廼村、旧河野村の持ち回りで毎年献上し、今回が南越前町になって初の持ち番となりました。町内で収穫された150本の水仙を増澤町長ら3人が傷がないかなどを確認しながら丁寧に箱詰め。プランター植え6鉢、寄せ植え1鉢と一緒に常陸宮家に届けられました。

甘い香りが漂う水仙　今年の出来は？

花の少ない12月から2月に咲くとあって人気のある水仙ですが、この時期は雪や風などの気象状況による影響を受けやすく、毎年生産量は変動が激しい状況です。今シーズンの場合、前半は好スタートで出荷時期にはいい状態の水仙が収穫できると期待できましたが、昨年12月の大寒波により、水仙畑も雪や強風にあおられ水仙が葉折れ等の被害を受けました。このため収穫量は例年の1～2割に減少し、例年、11月中旬～2月中旬まで行われる出荷作業も短期間に。水仙農家の人たちは、「ここ2、3年は異常気象で発芽が飛んでしまったり、早咲きだったりと不作だったがこんなひどい年は初めて」と話す一方で「気象により水仙の出来は大きく左右されるが、いい花を作りたいという気持ちは変わらない。あきらめず辛抱強く水仙栽培に取り組んでいきたい」と意欲を見せていました。